



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン：アフマディーネジャード大統領の各国首脳宛書簡（4月19日付バハール紙）

4月19日付バハール紙（改革派系。同日、プレス監督委員会が、同紙を発行禁止としたため、20日以降発行されていない）は、これまでアフマディーネジャード大統領が各国首脳宛に送付した書簡について報じている。概要は以下の通りである。

1. これまで、イラン大統領が首脳宛に書簡を発出したことはあったが、アフマディーネジャード大統領に関しては、通常的外交慣習とは異なり、各国首脳宛書簡送付の創始者として紹介することができるであろう。

2. アフマディーネジャード大統領は、自身の第9期政権2年目（2006年）に各国首脳宛に書簡を発出すると発表した。同大統領は、これまでに6カ国の首脳に書簡を発出しているが、返書をほとんど受理していない。同大統領がこれまでに発出した書簡は以下の通り。

(1) ブッシュ前米国大統領宛書簡

イラン太陽暦1385年オルディーベヘシュト月（西暦2006年4月21日～5月21日）、アフマディーネジャード大統領は、駐イラン・スイス大使（当時）経由で、米国民およびブッシュ大統領（当時）宛に書簡を送付し、ブッシュ政権下での政策に米国民は満足していないと指摘した。同書簡に関し、あるホワイトハウス高官は、「広範囲かつ歴史的」テーマを含む18ページにわたる書簡は、現在の論争とは直接的な関係はなく、同書簡には国際社会の懸念が考慮されていないとし、米は同書簡に返信する考えはないと述べた。

イラン国内では、同書簡に対して多くの批判が寄せられたが、ジャンナティー憲法擁護評議会書記は、テヘランでの金曜礼拝で同書簡を「素晴らしい措置」と捉えた。

(2) オバマ米大統領宛書簡

1 通目：イラン太陽暦1387年アーバーン月16日（2008年11月16日）、オバマ大統領の大統領選での勝利に際し、祝意メッセージをホワイトハウスに送付。同大統領書簡の送付に対し、アフマド・タヴァッコリー議員（原則主義派）等から多くの厳しい批判が寄せられた。

2 通目：イラン太陽暦1388年エスファンド月（2010年2月20日～3月20日）に送付。ハマー米国家安全保障会議（NSC）報道官は、米国は同書簡に対し返答するつもりはないと発表した。なお、同書簡の詳細については、今後、イラン大統領府から発表される予定。

(3) メルケル独首相宛書簡

1 通目：イラン太陽暦1385年ホルダード月（2006年5月22日～6月21日）にメルケル独首相宛に発出された書簡の詳細は発表されていないが、一部報道によると、イランの核問題および中東地域問題、特にレバノン・イスラエル間の紛争に関して書かれているとされる。しかし、独政府報道官は、同書簡の中でイスラエルに対する非難はなされて

いたが、核問題には言及されていなかったとし、メルケル首相は、同書簡に返信する考えはないと述べた。

2 通目：(2009 年 9 月) 独総選挙におけるメルケル独首相の再選に際し、祝意メッセージを送付。

(4) ローマ法王ベネディクト 16 世宛書簡

第 9 期政権時の大統領府広報担当次長によると、アフマディーネジャード大統領は、ローマ法王宛書簡(注：2006 年 12 月)の中で、預言者が共通に有する教理を用いる必要性、特に、公正を求める唯一性への回帰を強調することで、今日人類が抱える諸問題を解決し得ると提起し、同書簡が非政治的なものと説明した。モッタキー外相およびマシャーイー副大統領(当時)がベネディクト 16 世に謁見した際、同書簡への返答を受け取った。

(5) サルコジ仏大統領宛書簡

イラン太陽暦 1386 年アーバーン月(2007 年 10 月 23 日～11 月 21 日)、ルモンド紙は、仏大統領府報道官の発言を引用し、アフマディーネジャード大統領宛の書簡について報じた。同報道では、アフマディーネジャード大統領は、同書簡の中で、サルコジ大統領を「若く経験不足な人物」とし、両国間の関係を断絶しないよう要請したと報じられたが、サマーレ・ハーシェミー大統領上級補佐は、同書簡の内容について、イラン・仏関係の経緯および現状に言及しつつ、今後の関係について述べていると説明し、この報道を否定した。また、アフマディーネジャード大統領も同書簡に対する反応を示し、その内容は激しいトーンではなく、また、核問題に関するものでもないとした。

(6) シラク前仏大統領宛書簡

アフマディーネジャード大統領は、かつてシラク前仏大統領にも書簡を送付していたようである(時期不明)。

(7) プローディ伊前首相宛書簡

アフマディーネジャード大統領は、当時のサイード・ジャリーリー外務省欧米担当外務次官経由で、プローディ前伊首相に書簡を送付したが、返信は受理していない。プローディ前首相は、ジャリーリー次官との会談の中で、イラン政府と対話することに何も問題はないと述べていた。

(8) 米兵の母親宛書簡

イラン太陽暦 1386 年オルディーベヘシュト月(2007 年 4 月 21 日～5 月 21 日)、大統領府公式サイトは、アフマディーネジャード大統領による米兵の母親宛返信に関し言及した。ある米兵の母親は、同大統領宛書簡の中で、イランによる米国への攻撃の可能性に関する懸念について言及した所、同大統領は、「この種のメッセージをこれまでに多く受け取っている」とし、米国の政策を批判し、米国およびイスラエルの暴虐、貪欲さに言及しつつ、イランはいかなる戦争の開始者にもならないだろうと確約した。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799